

平成21年(ワ)第24208号

原告 荒井 晴彦 外1名

被告 絲山 秋子 こと 西平 秋子

証拠説明書(2)

2010年 1月 7日

東京地方裁判所民事第40部3A係 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 柳 原 敏 夫

1、書証(甲12～21)

甲号証	標 目 (原本・写の別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
12	本脚本(準備稿)	写	2004.5.28 印刷	原告荒井晴彦	訴外森重から被告側に最初に渡された本脚本(被告主張の「第一稿」)について。
13	本脚本(第3回目印刷稿)	写	2004.11.16 印刷	同上	甲1の脚本(被告主張の「第二稿」)に主に8箇所修正を加え、スタッフとキャストの名前を追加したこと。
14	大野亮宛の電子メール	写	2007.6.28	訴外文春の田中光子	・被告が完成した本映画を観ていないこと。 ・訴外文春の担当者は映画が「原作とは別物として受け止めて」いたこと。
15	宇ツ木利雄宛の電子メール	写	2007.9.11	同上	訴外文春の担当者は、脚本の年鑑代表掲載が原作者により拒否された本件の事態を「前例のない事態」と理解していたこと。
16	本映画の原作のクレジット	写	2005.2	監督廣木隆一ほか	本映画の原作のクレジットとして、「絲山秋子『イツツ・オンリー・トーク』より」ではなく、通常の原作表示がされていること。
17	画像(被告小説の単行本の帯)	写	2009.11.13 ダウンロード	氏名不明	被告小説(甲4)の帯に「映画化決定」と表示したこと。
18	画像(被告小説の文庫本の帯)	写	同上	同上	同趣旨
19	陳述書	原	2009.11.30	プロデューサー 新藤次郎	本原作使用契約第3条5項但書の追加により、それまでと比べ、契約処理上、二次利用の許諾が円滑に進むようになったこと。

20	陳述書(2)	原	2010.1.6	原告荒井晴彦	被告準備書面1および2に対する反論	
21の 1～4	雑誌「シナリオ」第2号	写	1946.9	原告シナリオ作家協会	映画の一般劇場公開に合わせ、広告宣伝の一環として脚本を雑誌「シナリオ」に掲載することが1946年当時から行なわれていたこと。	

以 上

参考：上記書証の URL

号証	URL
17	http://d.hatena.ne.jp/sorawotobu/20060119 (個人のブログ)
18	http://blog.goo.ne.jp/piaful/e/32e707034d8ab6a320af379a22042e27 (個人のブログ)